

クレーンのブームが送電線に接近し、作業員が感電

資材の搬出時にクレーンのブームが送電線（77,000V）に近接し、クレーンの側で作業していた玉掛け作業員が感電、負傷する事故が発生しました。労働安全衛生規則第349条では事業者の感電防止対策の実施が義務付けられています。架空線、特に送電線に近接して作業する場合、必ず事故防止対策を実施しましょう。



※当該送電線は写真上方

〔事故概要〕

25tクレーンでの資材搬出時、ブームが送電線に近接し、直下で玉掛け作業を行っていた下請け作業員が、玉掛けワイヤーに手を近づけたところ感電した。

（負傷の程度）

右手電撃傷、左足電撃傷、
通院にて約3週間の安静加療

※事故の詳細は現在調査中ですが、
注意喚起のため掲載しております

〔事故防止対策案〕

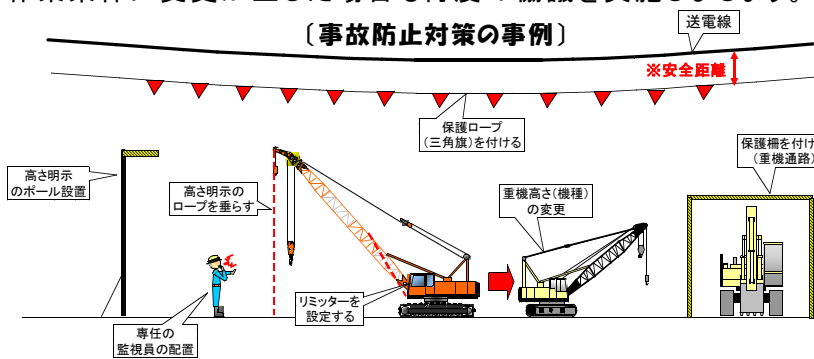
- ・クレーンの安全装置を設定する。
- ・専任の監視員を配置する

◆ 架空線（送電線等）の事故防止対策

クレーン等が送電線に近接・接触すると、作業員が感電で負傷するだけでなく、停電等により社会的に大きな影響を生じる事になります。

架空線（送電線等）に近接して作業を実施する場合、必ず**着手前に電力事業者と協議**しましょう。また、作業条件に変更が生じた場合も再度の協議を実施しましょう。

（参考：安全距離一覧）



	電圧 (ボルト)	最少 離隔距離	安全距離
配電線	100 又は200	1.0m以上	2m
	6,600	1.2m以上	
送電線	2~30,000	2m	3m
	77,000	2.4m	4m
	154,000	4m	5m
	257,000	6.4m	7m
	500,000以上	10.8m	11m

※「関西電力移動式クレーン等
電気事故防止のお願い」参照

送電線事故事例①

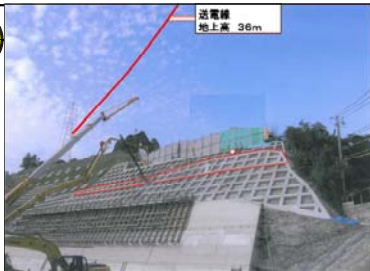
送電線（33000V）で 瞬時停電発生

（事故概要）

作業前点検のためブームを最大長まで伸ばしたところ、先端が送電線に近接し、瞬時停電が発生した。

【原因】

- ・クレーン設置位置の変更について関電との協議を怠った
- ・クレーンの安全装置を設定していなかった



送電線事故事例②

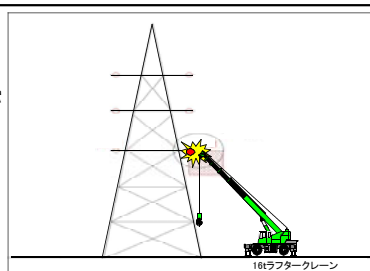
送電線（77000V）で 瞬時停電発生

（事故概要）

敷鉄板撤去の際、ブームを上げたまま旋回したところ、先端が送電線に近接し、瞬時停電が発生した。

【原因】

- ・監視員を配置していなかった
- ・クレーンの安全装置を設定していなかった



前期9会場、後期14会場合わせて 2463名が工事安全協議会に参加しました

(前期)工事安全協議会～開催風景～



姫路河川国道事務所



兵庫国道事務所、六甲砂防事務所
国営明石海峡公園事務所



福井河川国道事務所

◇前期安全講習会は、6月から8月にかけて9会場で発注者から監督職員等373名、受注者から現場代理人・監理技術者694名で延べ1067名が参加して開催されました。

(後期)工事安全協議会～開催風景～



豊岡河川国道事務所



福知山河川国道事務所

◇後期安全講習会は10月から始まり1月12日現在、14会場で、発注者から監督職員等413名、受注者から現場代理人・監理技術者983名で延べ1396名が参加して開催されました。

◇前・後期合わせると2400名を超える参加者のもと、各会場では労基署・警察署及び企画部からの講演や、受注者から安全対策の取り組み発表等が行われ、工事の安全対策に関する情報の共有や安全対策の意識向上が図られました。

◇滋賀国道・琵琶湖河川・大戸川ダム3事務所合同で開催した工事安全協議会は、マスコミに取り組みが紹介されました。(右:12/5滋賀産業新聞記事)

降雪・積雪等による事故にご注意!

2月1週目は気温がかなり低くなる見込みで、日本海側で大雪となった1月末からの降雪も続く恐れがあり、十分な注意が必要です。

路面凍結による交通事故や通路・足場での転倒事故、除雪作業に伴う公衆災害に加えて、コンクリートの練炭養生の際の一酸化中毒等や降雪による視界不良を原因とする架空線事故等の危険性が高まります。

降雪・積雪時には慎重な作業を徹底するとともに架空線や障害物の明示を実施しましょう。